

万博公園探鳥会

2023年3月11日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
有賀憲介・平軍二(090-6901-1425)

1. 千里の鳥・万博の鳥「ヒヨドリ」

(写真 有賀憲介)



今月の鳥はヒヨドリ、大阪近郊では留鳥として一年中いるが、冬は北からきているヒヨドリも加わるためか数が多く、樹林の中で「ピーヨ・ピーヨ」と騒々しく鳴いている。ヒヨドリは体長 28 cmと小鳥類の中で大きいこと、木から木へ移動するとき波形で飛ぶなど、観察しやすい鳥でわかりやすい。

今の季節、液果と呼ばれる色のついた木の実に集まっているが、地上に降りて草の葉を食べていることもある。

今は四季を問わず観察できるヒヨドリが、50年ほど前までは漂鳥、冬は市街地にも、繁殖期には近くの山地の林へ移動し繁殖・子育てをしていた。そのヒヨドリが漂鳥から留鳥に変わった理由は分からないが、時期についての記載が見つかった。

都心へのヒヨドリの繁殖拡大に最初に気づいたのは川内博・藤本和典の両氏、1968年から進出が始まり1973年にはほぼ全都で繁殖するようになったという。しかも、もともと森林性の鳥でありながら

明治神宮や皇居といった広大な緑地ではなく、最初から小さな公園や街路樹での繁殖から始まった。このヒヨドリの都市進出は東京だけでなく、名古屋・大阪・千葉・茨城・埼玉なども同時進行的に見られ、当時鳥仲間の話題になったとのことである。★1

私(平)が鳥を見始めたのは1980年代であり、ヒヨドリはすでに留鳥となっていた。例えば1985年2月にスタートした万博定例探鳥会では、開催したすべての探鳥会でヒヨドリを観察している。★2

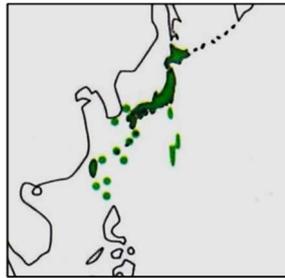
ヒヨドリは万博公園内にある木の実・木の花を利用しており、クスノキ・トウネズミモチ・センダンなどが無くなりクロガネモチの赤い実や、ウメ・ツバキなど花の蜜を求めて飛び回っているが、夏にはセミを追いかけてつかまえていることもよく観察できる。

ヒヨドリの働きで紹介したいことの一つに、冬に咲く花の花粉を媒介していることがある。

通常、花の花粉はチョウ・ハナバチ・ハナアブなど昆虫が媒介していることはよく知られているが、

昆虫は変温動物で寒い冬は動けないことから、冬に咲くサザンカ・ツバキ・ウメなどは恒温動物である鳥、中でもヒヨドリ・メジロに花粉を媒介してもらっている。ツバキやサザンカの花の蜜を吸いに来たヒヨドリが、顔の周りに花粉をいっぱいつけて黄色くなっているが、そのまま違う花に行くと、その花粉をめしべに付けることで受粉が成立している。

日本では傍若無人にふるまっているヒヨドリ、



世界的に見ると右図のように日本(や台湾)など極東にしかいない生息範囲の狭い鳥、何で日本にしか住めないのか不思議である。★3

今月有賀氏の写真のヒヨドリは、木の切り株に止まって、「今度はどこの餌場に行こうか」と周囲を見回している所かと思われる。

★文献1 唐沢孝一「マンウォッチングする都会の鳥たち」
草思社 1987年

★ " 2 平軍二「万博公園定例探鳥会記録」

★ " 3 真木広造・大西敏一「日本の野鳥 590」
平凡社(2000年)

2. 2月探鳥会結果報告より

アキノレの実にカワラヒワ、エンジュの実にツグミ、メタセコイアの樹上から春の歌を歌うイカルからスタートした。ツグミは上空を何度となく飛び回り、アトリ・カワラヒワの群も樹上だけでなく地上に落ちたアキノレの実をついばむなど、何度か出てくれた。日本庭園に入って樹上のシメ、更にカワセミをゆっくり見ることができた。1月に見ることができた所ではいなかったアオバト、心字池「北側から東方向の樹林に止まるアオバトを見つけることができ、全員で観察した。1月モニタリングでツグミ・アトリの冬鳥が増えており、今日も期待通りであったが、鳥の種数は例年より少なく、今日も31種にとどまった。



アオバト(橋本昌宗)



ツグミ(橋本昌宗)



シロハラ(橋本昌宗)

なお、万博探鳥会は1985年2月にスタートし満38年になったが、1985年2月と本日の観察種を比較した。1985年2月34種、本日30種(1985年にあわせドバト抜き)、両年の観察種21種、1985年間観察種で本日確認できなかった種13種、本日観察したが1985年観察できなかった種9種であった。中でも1985年2月に観察できたが、最近(orほとんど)観察できなくなった種としてキジ・コジュケイ・ヒバリ・ホオジロ・カシラダカなど草原の鳥、一方で1985年2月に観察できなかった鳥で最近冬はほぼ毎月観察できる種としてアトリ・ルリビタキなど林の鳥があり、当初草原状態にあった万博公園が、樹林状態に変化していることを、観察種から再確認した。

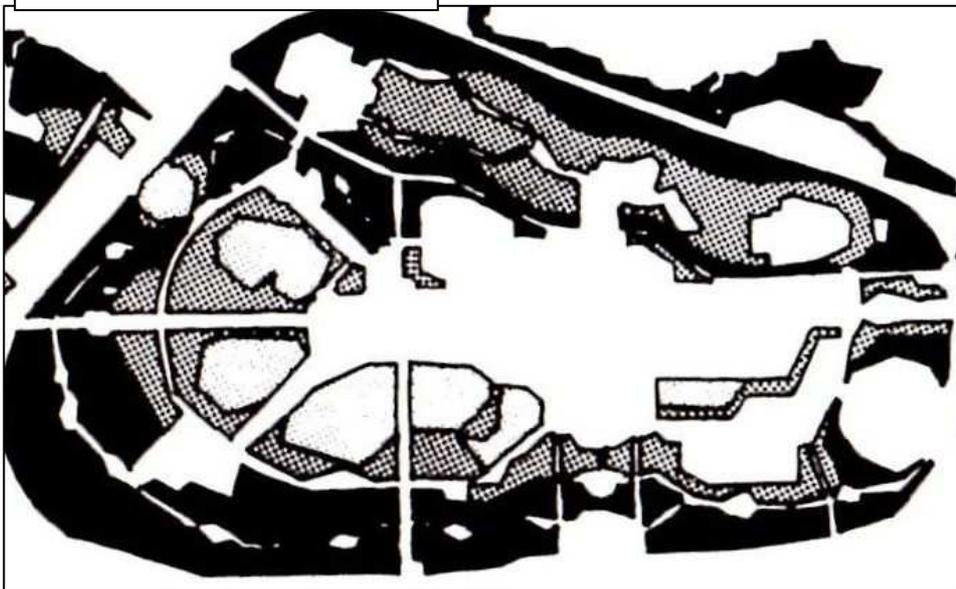


キジ(天筒靖昌)1990年頃

3. 万博公園の森の計画① 吉村元男先生

今月は万博の森を設計された吉村元男先生(元鳥取環境大学教授)の著書(★4) から抜粋する。

万博公園の三つの森(配置)



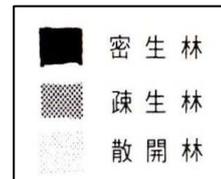
公園設計における原則

①三つの「み」

「緑」「水」「道」

②万博公園の三つの「み」

①三つの森



②三つの道

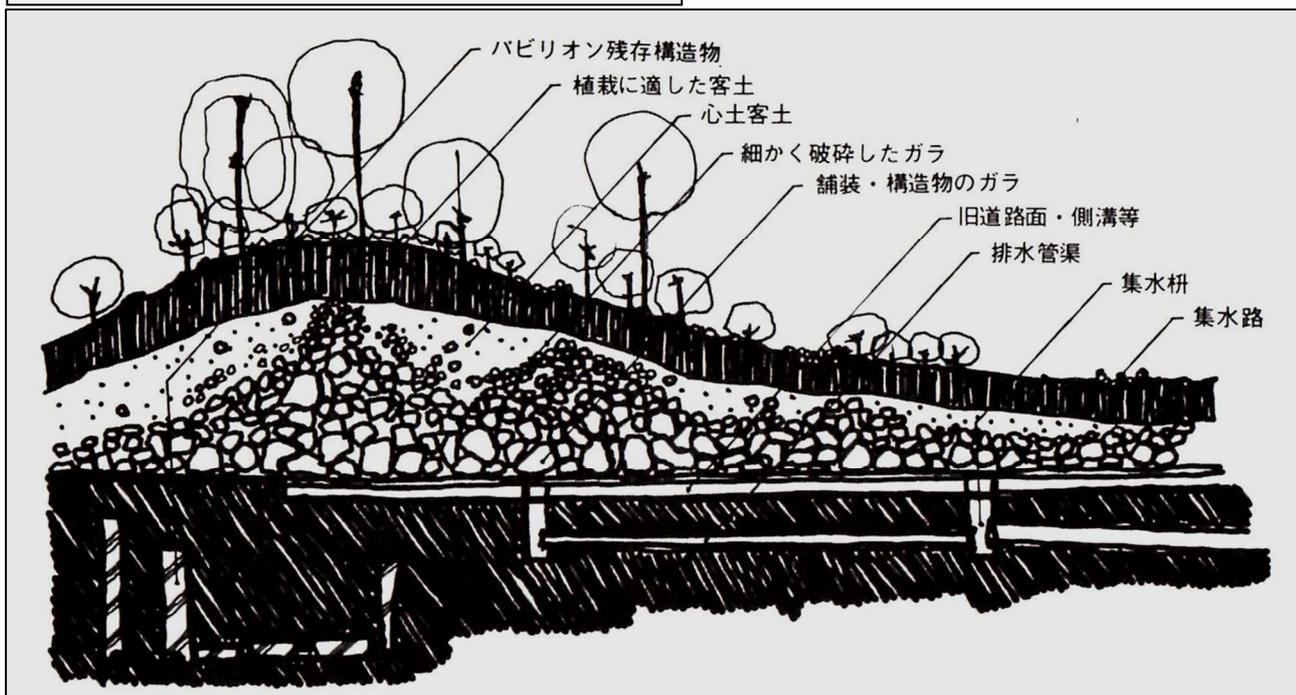
(上津道・中津道・下津道)

③森の中を流れる水路、池

表1 三つの森と特性(基本計画)

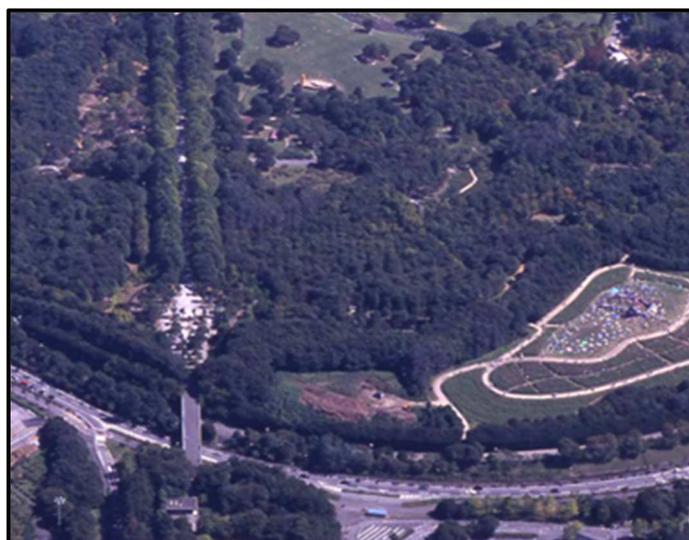
樹林型 特性項目	密生林	疎生林	散開林
特 性	自然の再現(自立した森)を目指す常緑樹を中心とした樹林であると同じに、外部の様々な悪影響(騒音、排ガス、強風等)を遮断する重要な役割も果たしている	落葉樹を中心とした比較的明るい樹林。魅力あるスポットを配し、景観の変化を楽しむ	芝生を中心とした明るく広々とした空間
樹 林 被 度	70 ~ 100%	50 ~ 80%	10 ~ 20%
林 床	きわめて少ない	ササ、ススキ、野草	芝生
灌 木	耐陰性樹種	二次林の構成種	低い刈込
利 用 度	低	中	高
行動の自由度	小	中	大
主な利用内容	散策、自然観察	休養、散策、観賞、自然観察	休養、観賞、ピクニック、軽いスポーツ
保 育 管 理	自然の生態系による	下刈り、落葉還元、間伐	刈込、施肥、灌水
主 要 樹 種	シイ、カシ、クス、シロダモ、ツバキ等	クスギ、アベマキ、コナラ、ナラガシワ等	ムク、エノキ、クス、カシ、シイ等
計 画 面 積	80ha (外周部保存緑地約40haを含む)	35ha	10ha
イ メ ー ジ			

盛土構成模式図(最高地 60m 最低地 34m)



↑ **密生林・疎生林・散開林** 土壌として万博パビリオンの残存構造物や、構造物を破碎したガレキが埋められた。その上に植栽に適した搬入土(客土)が盛られているが、最大1m程度である。その後石油ショックのあおりを受け、30 cm~50 cmほどと極端に少なくなり、のちに樹木の生育に大きく影響を及ぼしたとのことである。

↓ **「花の丘」** 万博公園空中写真 1982年→2000年と比較すると森の変化とともに、2000年には**「花の丘」**が新設されている。1982年「花の丘」の位置を見ると、植林されているが森に土色が見える。「花の丘」となった区域は、樹木の生長がおそかったため、「花の丘」に改変されたとのことである。



↑ 1982年

万博公園自然文化園(空中写真)

2000年↑

西口から西大路を東方向に見た景色の変化

4. 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

種名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	種名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	9	14	11	9	27	10	8	12	10	29	11	11		9	14	11	9	27	10	8	12	10	29	11	11
1 24 オンドリ													50 463 ヒヨドリ	27	8	6	12	9	11	43	27	42	60	31	
2 26 オカヨシガモ	1												51 464 ウグイス	9	12	3	5			1	1	1	2	2	
3 27 ヨシガモ											1		52 465 ヤブサメ												
4 28 ヒドリガモ													53 466 エナガ	4	10	6	4	7	2	27	10	6			
5 30 マガモ		3									1		54 477 メボソムシクイ												
6 32 カルガモ	24	14	2	8	7	8	12	15	4	23	14		55 479 エソムシクイ												
7 35 オナガガモ													56 480 センダイムシクイ												
8 38 コガモ									6				57 485 メジロ	25	6	8	20	19	29	17	11	26	30	5	
9 42 ホシハジロ													58 492 オオヨシキリ												
10 46 キンクロハジロ													59 501 ヒレンジャク												
11 58 ミコアイサ													60 506 ムクドリ	23	18	9	88	2		2		1			
12 62 カイツブリ	9	8	3	14	5	4	6	3	6	10	6		61 508 コムクドリ												
13 74 キジバト	13	12	3	5	2	5	7	1	1	3	3		62 514 トラツグミ												
14 78 アオバト	1	2								8	14		63 521 シロハラ	22								1	20	15	
15 127 カワウ	9	11	5	2	3	3	3	2	3	2	5		64 522 アカハラ	2											
16 139 ゴイサギ													65 525 ツグミ	26								6	134	49	
17 144 アオサギ	1	1	1	2	2	2	1	4	2	2	2		66 530 コマドリ												
18 146 ダイサギ	1												67 536 ルリビタキ									1	1	3	1
19 148 コサギ		1					1			2	2		68 540 ジョウビタキ									3	6	3	5
20 174 バン					2	2				2			69 542 ノビタキ												
21 175 オオバン	1												70 549 イソヒヨドリ					2	2				1		
22 187 ツツドリ													71 552 エソビタキ									3			
23 192 アマツバメ													72 554 コサメビタキ						4	8					
24 195 ケリ													73 558 キビタキ		5	3			2	1					
25 202 イカルチドリ													74 561 オオルリ	1											
26 203 コチドリ													75 568 ニュウナイスズメ	2											
27 219 タシギ									1				76 569 スズメ	31	49	33	102	33	48	42	22	71	39	60	
28 244 イソシギ													77 573 キセキレイ					1		4	1	4	2	1	
29 286 ユリカモメ													78 574 ハクセキレイ	4	4	1	3	34	28	6	10	14	12	9	
30 339 ミサゴ													79 575 セグロセキレイ	2	2	3	3	3		1		2			
31 340 ハチクマ							1						80 580 ピンズイ										3		
32 342 トビ	2												81 584 タヒバリ												
33 354 ツミ													82 586 アトリ	12							43	48	65	40	
34 355 ハイタカ									2	3			83 587 カワラヒワ	21	16	14	46	1	1		12	7	21	51	
35 356 オオタカ											1		84 600 シメ	3								1		3	
36 357 サシバ							1						85 602 イカル	2		1		1		2		1		4	
37 358 ノスリ										1			86 610 ホオジロ												
38 383 カワセミ		1	2	1	3	2	3	2	2	2	2		87 617 カシラダカ												
39 390 コゲラ	6	6	5	1	4	4	2	2	6	6	2		88 624 アオジ	7								1	5	4	4
40 401 チョウゲンボウ	1				1						1		89	ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41 407 ハヤブサ													90	ソウシチョウ	2										
42 412 サンショウクイ													91	カッコウSP											
43 418 サンコウチョウ													92	ムシクイSP					1	1	2				
44 420 モズ							7	1	4	3	2		93	タカSP											
45 435 ハシボソガラス	4	17	12	18	14	7	6	7	15	4	7		94												
46 436 ハシトガラス	127	23	13	31	33	54	43	73	54	71	89		種類数(種)	37	27	24	22	28	26	30	28	34	32	31	
47 442 ヤマガラ	6	6	5	4	11	13	11	6	12	7			個体数(羽)	477	277	156	383	219	260	289	279	373	565	443	
48 445 シジュウカラ	36	24	10	7	14	23	20	12	15	21	13		天候	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	
49 457 ツバメ	10	15	8	7	4	1	7						参加者数(人)	5	12	16	10	5	16	33	28	28	4	33	
50 459 コシアカツバメ	3				1	3																			

次回 4月8日(土) 9:30 自然文化園中央口

日本野鳥の会 HP より fomuzs 方式でお申し込みお願いします。